



みなさんの身の回りには危険がいっぱいひそんでいます。  
今回は自転車で事故を起こした場合、裁判所はどのように問題を解決していくのかをみてみましょう。

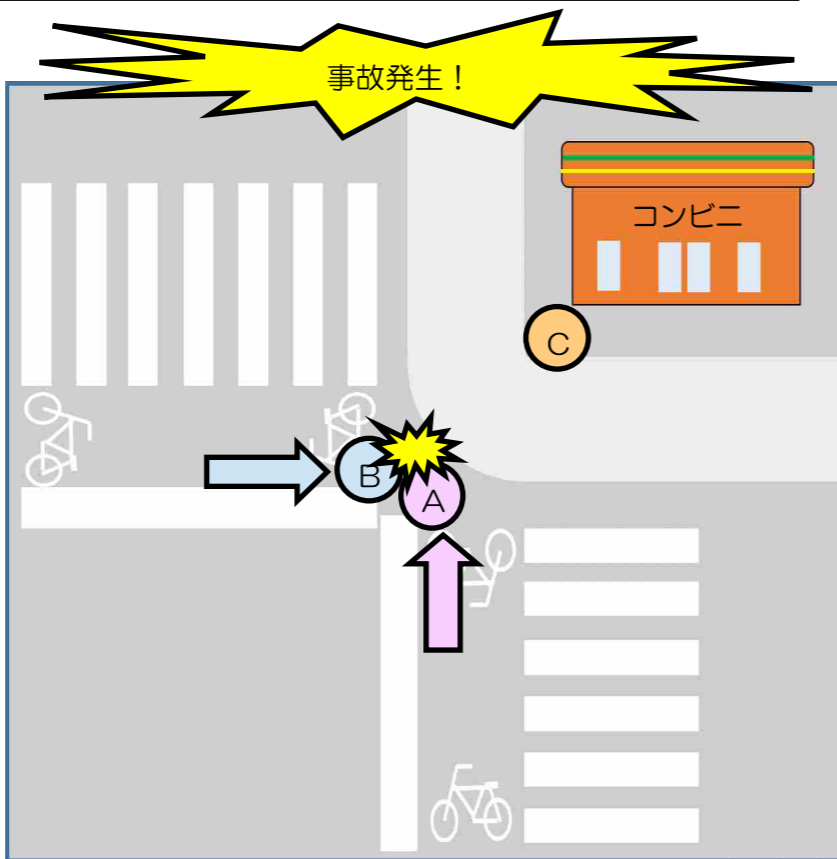
Aさんは夜仕事を終えて、お腹がすいていたので、イヤホンで音楽を聞きながら猛スピードで自転車に乗って家に帰っていました。

家に帰る途中にある信号機付きの交差点を渡り終えたところ、交差点左側の道路から自転車に乗ったBさんが現れて、ぶつかってしまいました。

ぶつかったはずみでBさんは倒れてしまいました。

その事故の様子をたまたま交差点の角のコンビニで買い物をして外に出てきたCさんが目撃していました。

Bさんは全治1か月のケガをしてしまいました。



事故が起こった現場に警察官がやってきました。警察官はAさん、Bさん、Cさんに話を聞いたところ...



信号が青だったので交差点を渡った。ちょうど渡り終えたところにBさんがぶつかってきた。私はライトをつけていたけど、Bさんはライトをつけていなかった。

「信号無視したのはBさんです。」

信号が青だったので渡った。渡り終えたところに急に前から猛スピードでAさんが現れた。Aさんは音楽を聞いていたようで、周りをよく見ていなかったと思う。

「信号無視したのはAさんです。」



買い物をして外に出てきたら、大きな音がした。信号の方を見ると、Aさん側の信号が赤だったように思う。

「信号無視したのはAさんです。」

# 裁判官に聞いてみよう!



今回は若手裁判官の石橋直幸裁判官にインタビューをしました。お仕事のことやプライベートのことなどたくさんお話を聞きました!

～プロフィール～

三重県出身で大阪育ち、東京の大学へ進学、裁判官としての初めての勤務地が、ここ和歌山地方裁判所なんだって!



## Q 裁判官になろうと思ったきっかけは?

中学校の行事の中に裁判傍聴があり、そこで裁判を知り、法律に興味をもちました。大学で法律を学んで、最初は弁護士になろうと思っていましたが、大学の講師だった裁判官や、司法修習(司法試験に合格してから受ける研修)中に会った裁判官の人柄や仕事ぶりを見て、裁判官ってカッコいいなと思ったのがきっかけです。

## Q 裁判官になってよかったなと思うことは?

裁判所に来る方は何か困りごとを抱えていることがほとんどです。判決などで事件に一区切りがつくことで、その方が前を向いて生きていく手助けができたと感じられることです。

## Q 全ての法律を覚えているの?

それはなかなか難しいところでして(笑)。  
主要な法律をまとめた六法全書でも、全て覚えている人は少ないと思います。裁判で使う条文は限られているので、よく使う条文は自然と頭に入っています。知らない法律や疑問に持ったことについては、携帯している六法を見て調べて、その場で確認して法律を使うということをしています。

## Q 裁判官が着ている黒い服(法服)をいつも着ているの?

法服を着るのは法廷で裁判をするときだけなので、普段は今日着ているようなスーツを着て仕事をしています。

## Q 休日の過ごし方は?

わり割と家にいることが多いです。家でインターネットの動画をみたり、映画をみたりして過ごしています。映画はパイレーツオブカリビアンシリーズのようなアクション系のものが好きです。



インタビューは笑いも交えながら楽しい雰囲気ですんでいるね♪



## Q 小学生の時になりたかった職業は?

宇宙飛行士になりたかったです。家にあった宇宙の本を読んで、誰も行ったことがないところへ行ってみたいというロマンを感じ、小学生の頃ずっとなりたっていたと思っていました。



## 石橋裁判官からみなさんへメッセージ

裁判所や法律は身近なものではないというイメージがあると思いますが、そんなことは全然なくて、みなさんの生活にかかわるとても身近なものです。このパンフレットをみて少しでも法律や裁判所に興味をもってもらえたらと思います。